

◆重点普及課題

モズク種培養技術の普及(沖縄本島地区)

水産業改良普及センター 與那嶺盛次・中村勇次

1. 目的

モズク養殖は、本県沿岸域の水産業において重要な位置を占めている。モズク養殖では、母藻やシート採苗による種付けも行われているが、母藻での種付けでは種付け時期が限定されることや母藻の確保が困難な場合がある。そこで、いつでも種付けができるモズク培養種を配布し、拡大培養の指導を行った。

2. 活動内容

1) モズク培養種の配布及び培養技術指導

(1) 実施地区：本島中南部地区

モズク類培養種の配布は、今回も漁協単位で行い、平成23年度をもって終了することを平成23年7月15日普及センターから本島地区の各漁協に通知した。

普及センターでは、寒天培地からオキナワモズク2株(知念株、本部株)とイトモズク2株(伊江島株、久米島株)立ち上げ、拡大培養を実施した。

9月1日と2日にオキナワモズク培養種を糸満漁協4リットル、那覇市沿岸漁協4リットル、沖縄市漁協4リットル、久米島漁協4リットル、知念漁協4リットル、座間味村漁協4リットル、与那城町漁協4リットル、読谷村漁協4リットル、那覇地区漁協4リットル、渡嘉敷漁協4リットル、勝連漁協4リットルの計11漁協に44リットルを配布した。また、イトモズク培養種を久米島漁協4リットル、知念漁協4リットル、与那城町漁協4リットル、勝連漁協4リットルの計4漁協に16リットルを配布した。

(2) 実施地区：本島北部地区

今年度のモズク培養作業は6月から実施した。まず、昨年使用していたモズク培養コンテナを清掃してから培養作業を実施。今年は、モズク母藻と確認板を海水へ投入してエアレーションし、盤状体を着生させて採苗する手

法を本部、伊平屋、伊是名の3地区の母藻を用いて実施したが、雑藻の繁茂により拡大培養までは至らなかった。

寒天培地から、伊平屋産3株、伊是名産1株、本部産1株の計5株のモズク種苗を拡大培養したが、途中緑藻の繁茂があり全部廃棄した。

7月に本所からイトモズク2株(久米島産、伊江島産)をもらい受け拡大培養を開始。8月に本所からオキナワモズク2株(本部産、知念産)をもらい受けて拡大培養を開始した。

9月14日に金武漁協へオキナワモズク4リットル、イトモズク4リットルを配布した。20日に、国頭漁協と名護漁協へそれぞれオキナワモズク4リットル、イトモズク4リットルを配布した。今月中には北部地区の各漁協へ配布する予定。

9月20日に名護漁協、国頭漁協が来所し、オキナワモズク4リットル、イトモズク4リットルをそれぞれの漁協へ配布した。名護漁協では、昨年イトモズクの網にオキナワモズクが雑藻として混入したとのこと。国頭漁協では、寒天培地からの拡大でも順調に培養種が増えており、次年度以降のモズク培養技術の移転は完了していると見てよい。

9月26日に羽地漁協が来所し、オキナワモズク4リットルを配布した。

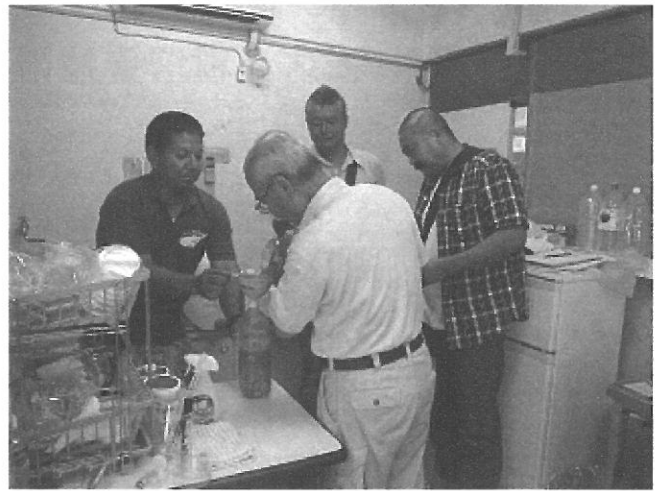
9月27日に宜野座漁協へオキナワモズク4リットル、イトモズク4リットルを配布。運天港から伊屋漁協と伊是名漁協へそれぞれオキナワモズク4リットルを船便で輸送して配布した。

3. 今後の課題

- (1) モズク種の拡大培養技術の普及
- (2) モズク種採苗方法及び寒天保存方法の普及



モズク類の種培養(本島中南部地区)



モズク類培養種の配布(本島中南部地区)



モズク類培養種の配布(本島北部地区)



配布培養種の拡大(伊平屋村漁協)